

| | | | |
|------------------|---------------|---------------------------|--|
| 科目担当者氏名 | | 科目担当者連絡先（メールアドレス） | |
| 諸橋 泰樹 | | | |
| 連絡責任者氏名 | | 科目設置機関名 | |
| 小ヶ谷 千穂 | | フェリス女学院大学 文学部 コミュニケーション学科 | |
| 授業科目名 | 科目認定番号 | 受講者数 | |
| コミュニケーション専門ゼミIIB | FERa-090502-2 | 11人 | |

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

先行研究の読み込みと理解に十分な時間を費やしたこともあり、比較的質の良い質問紙調査を行うことができたと考えている。学生は、質問紙の作成、回収、集計、分析、報告書作成のすべての領域に主体的に参加した。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

集団の中での自己イメージに関する調査・分析

2. 調査の内容／概要：

集団の中での役割付与もしくは役割演技に関して、女子大生にアンケート調査を実施した。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

母集団としては、現代の青年期の女性を想定した。標本集団は、現在18歳から22歳の女子学生160名。サンプリング方法に関しては、サンプルが本務校に著しく偏ることのないよう留意した。

4. 主な調査項目：

フェイス項目(1)個人について（7問）。フェイス項目(2)所属する集団と、それについての態度など（9問）。意識調査項目(1)自身の性格について（14問）。意識調査項目(2)趣味・嗜好などについて（2問）。意識調査項目(3)考え方について（3問）。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

実習参加者で分担を割り振って、アンケート調査の依頼を行い、大学・専門学校などで調査を実施した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2010年10月。調査地：神奈川県横浜市・東京都。調査員の数：11名。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

調査員が実際に配布し、その場で回答・回収したため、回収率は100%であった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

カイ2乗検定による。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

役割演技としての「自己キャラクター」に対して自分が肯定的評価を持っている場合には孤独感がなく、逆に否定的評価が高い場合には孤独感が強く見られた。また、自己開示をしやすい傾向のある人のほうが、「自己のキャラクター化」に化しては否定的であった。さらに、自己肯定感が強い人ほど、「自己のキャラクター化」を受け入れにくい傾向が見られた。

10. 報告書刊行の予定と概要：

調査の一部は、多文化・共生コミュニケーション論叢に発表。